

トドマツヒメハマキ (別名 トドマツメムシガ, アカトドマツヒメハマキ)

6月頃にトドマツの新葉を束ねるイモムシ(幼虫)。最大長約9mm。頭や体は黄色。数枚の葉を糸でつづって筒状の巣を作る。巣はたいてい黄色に枯れる。蓑虫状に巣を背負って移動することもある。

20～30年生のトドマツ林で多発することがあるといわれている。



1. 幼虫, 1980/6.



2. 成虫, 体長3.5mm.

【学名】 *Epinotia aciculana*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera), ハマキガ科 (Tortricidae)

【分布】 北海道; サハリン, ウスリー, アムール, 中国東北部.

【特徴】

幼虫がよく似た種にトドマツアミメヒメハマキがあり, しばしば混生する。トドマツヒメハマキの幼虫は肛門のすぐしたに櫛歯状の刺毛(尾叉, びさ)を持つが, トドマツアミメヒメハマキの幼虫は尾叉がない。また, トドマツアミメヒメハマキの老齢幼虫の巣はきれいな筒状ではない。

【生態】

トドマツのほかにエゾマツにも寄生する。

年1回発生。卵越冬らしい。幼虫は6月に葉を綴って筒状の巣を作る。巣の内側に面する部分を削り取るように食べるので, 巣は黄色になる。7月上旬に巣の中で蛹化。成虫は7月下旬～8月上旬に出現。

【被害】

トドマツ林で多発するとされるが, 多発記録はほとんどない。

【文献】

1984. 鈴木重孝, 駒井古実. 北海道における針葉樹を摂食する小蛾類. 北海道林業試験場報告, 22: 85-129. (分類, 形態, 生

態)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

トドマツヒメハマキ himeham/todohime/
kaisetuh.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 2001/11/8-12/23.

yochu.JPG, seichu.JPG

「写真1～2」 鈴木重孝, 北海道立林業試験場, 1962-1968.